

保険薬局におけるトラベルファーマシー実現への取り組み

Initiatives aiming to realize travel pharmacy in community pharmacy

○瀧藤 重道^{1,2}

¹このみ薬局 ²愛知学院大学薬学部臨床薬剤学講座

近年、渡航医学の知識は少しずつ普及するとともに、関与する医療従事者やトラベルクリニックの数も増えてきている。しかし、その存在を知らない渡航者も多く、何もしないまま渡航してしまうケースもあり普及啓発が必要とされている。その役割の一端を担うものとして身近な医療従事者である保険薬局の薬剤師の活用が期待されている。日本渡航医学会の薬剤師部会では渡航医学の知識を持つ薬局として「トラベルファーマシー」の確立に向けて模索を始めている。

保険薬局では「健康サポート薬局」、「かかりつけ薬剤師」、「検体測定室」などの取り組みが行われており、地域に密着した健康情報の拠点として、一般用医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等、セルフメディケーションの推進が期待されている。この取り組みの一環としても渡航医学の知識を活用することで社会に貢献することが出来るはずである。

「トラベルファーマシー」の役割としては

- ① 渡航時の情報提供
 - ② トラベルクリニックへの受診勧奨
 - ③ 渡航時に必要な物品の販売
 - ④ 海外持ち込み可能薬の確認
 - ⑤ 英文薬剤携行証明書の作成
- などが考えられている。

このみ薬局では、まず実現可能なものとして渡航時に必要な物品の販売と蚊媒介感染症の情報提供を開始した。特に重要な物品として防蚊対策のペルメトリン加工衣類と DEET30%、イカリジンを取り扱うこととした。また、当薬局の取り組みを第 10 回東海渡航ワクチンセミナーにて近隣のトラベルクリニックへ紹介したことで少しずつだが連携が取れ始めている。その結果を今回は紹介していくと共に今後の展望について述べる。